

KIDS SMILE LABO JOURNAL

“キッズ スマイル ラボ ジャーナル”

KIDS SMILE LABO が発行するフリーペーパー。普段 SNS でしか見られない保育園の子どもたちの様子や、子育てに関する情報等、最新情報をお届けします。

Vol.21
2023
TAKE FREE



KIDS SMILE LABO の 1 枚。

副園長の森菅さんが選んだ、とっておきの 1 枚を紹介します！

“心が音を奏でている”

まてまて！と追いかける
一人ではなく相手がいるからできること
楽しい！と弾み合った心の音は笑い声になって耳に伝わり
その時、その瞬間の記憶を心と身体に刻んでいく
相手がいるからこそ喜怒哀楽の感情の訪れはもれなくやってきて
何かしら心を動かし感じたり考えたりする
初めて出会う感情も 言葉にできない感情も
そのどれもに向き合い自分の気持ちを整理する
心が喜怒哀楽の色々な音を知り豊かになっていく
そうして相手を知り自分を知る育ちの時間

今日も子どもたちはたくさんの心の音を奏でるだろう
相手がいるからこそ聴こえてくる奏で合いの音を心に刻んでいこう

photo & text by morimori

今月のおすすめ note !

かおちゃんのつれづれラボ日記

「くやしい気持ちはどうしてる？」

ある日のできごと。保育や子育てのちょっとしたヒントを見つけてみてください。

もりもりのわくわくラボ日記

「先を生きている分だけ答えを持っている、けど。」

結末のわかっている映画、観ても面白くないですね。そんなことを考えて読んでいました。

園長 松下かおる



副園長 森菅



続きは **note** にて →

kidssmilelabo.com

@kidssmilelabo

KIDS SMILE LABO

@kidssmilelabo

@KIDS_SMILE_LABO

KIDS SMILE LABO CLASS NEWS

2 February

● DAICHI
● OOZORA

ラボに泊まろう！



今年のお泊まり保育は 4.5 歳児 4 名。初めて親元を離れる子もあり、ドキドキとワクワクの気持ちが入り混じる中その日を迎えました。

当日は夕食作りからスタート！リクエストは、ロコモコ丼、マカロニサラダ、大きなパンケーキ、「今日はずっとラボにいる！」と楽しいおしゃべりをしながら、張り切って調理をする姿はとても微笑ましかったです。しかし、最後のお迎えが見え、4 人だけの時間になった途端、涙がポロリと溢れる子も…賑やかだったおしゃべりがピタッと止まり、涙する仲間の姿を見て全員の表情が一瞬にして強張りしました。何と声をかければ良いかと困った気持ちと、自分も寂しくなりそうで堪える気持ちとが入り混じっているようでした。この時、「みんなで大泣きしてしまうかな…？」という予想もしましたが、一緒に話しをする中で、涙は止まり、再びみんなに楽しいおしゃべりの時間が戻っていきました。その姿から、グッと堪えることができるようになった心の成長と、一緒に過ごしたいと思える仲間の絆があることを感じました。

そんな一幕も経験しつつ、夕食は無事に完成！ジューシーなハンバーグに、色々な形の目玉焼き、巨大パンケーキが豪華に並び、パーティーのような夕食となりました。そして、夕食後はお楽しみタイム。

かおちゃんからの宝探しの動画を見て、ラボ内にある地図のカケラを探していきました。そして、その地図が指し示すビルの3階へ。ヒントに従い進む中で、夜の雰囲気には怖い気持ちが湧き上がり進めなくなる場面もありました。その時に「怖いという気持ちは自分の心が作り出しているのかもしれないよ。」とモリモリからの言葉を受け、怖い気持ちを乗り越えた時、4 人で宝物を発見することができたのでした。

2 日目は平塚市にある「陶磁器工房 器楽」さんに出向き、陶芸体験をさせていただきました。工房の雰囲気に初めは緊張した表情でしたが、どの子も自分が作りたいように伸び伸びと表現していました。焼き上がりが楽しみです。

お泊まり保育の最後は、調理さんのお弁当を持ってピクニック。お弁当箱を開けた瞬間「うわあ！」と驚きと喜びの声が上がっていました。口いっぱい頬張り、おしゃべりをして最後までお泊り保育の時間を楽しみました。大好きなおうちの人から離れ、ラボの仲間と過ごした時間は子どもたちにどんなものを残してくれたのでしょうか。私にとっては、普段とは違う姿が見られたり、一歩乗り越えていく瞬間に立ち会えたり、最高の笑顔に出会えたりと、とても愛しい時間でした。この仲間と過ごせる時間もあとわずかです。残りの時間も 1 日 1 日を大事に過ごしていきたいです。 文 ちなちゃん

● DAICHI
● OOZORA
● MINAMO
● NOBANA

まぜて！つぶして！まるめて！

今回はすーちゃんが料理の先生となって、味噌づくりを教えてくださいました。当日は朝から大豆を煮た匂いが保育室に広がっていました。「味噌ができるまで」の本をみたり、昨年の味噌づくりの話をしたり、大豆に関するクイズをしたりと、子どもたちは「はやくつくりたいよ」と味噌づくりを楽しみにしていました。エプロンとマスクをつけ、手を洗い、準備万端。初めに味噌づくりの材料の紹介と共に、麴の匂いを嗅いだり、茹でた大豆の試食と茹汁の試飲をしました。「さっきのにおい（麴）は大丈夫だったけど、このにおい（茹で大豆）は苦手」の言葉。大豆は食べ慣れていることもあり、「美味しい」という言葉が多かったのですが、大豆の茹汁を飲んだ子どもたちの表情は「なんだこの味！」というような不思議な表情をしていました。

味噌づくりを 1 時間と少し頑張った子どもたち、みんなで「やったあ」と最後に拍手をしました。途中で飽きることなく一人ひとりが真剣な顔で味噌づくりを楽しむ姿、目を輝かせ夢中になる姿が印象的でした。「暗くて涼しい場所に置く」の言葉に子どもたちはどこに置こうかなと考え、悩む姿がありました。各家庭保管場所は決まったでしょうか。また、サンタクロースが来る頃に美味しい味噌ができるのがいまから待ち遠しいですね。



① 麴と塩を混ぜる

「混ぜる時には、麴をつぶさないように優しくふくら」との言葉のまま、子どもたちは優しく手の平と手の平をすり合わせていました。「まだここにもある」と麴の塊をみつけ、てはパラパラに繰り返し、混ぜ合わせていきました。手についた塩をみて、「キラキラしているね」とじっと手のひらを見つめる姿は可愛らしかったです。

② 大豆をつぶす

袋にいれられた茹でた大豆をからだ全身を使って、友だちと協力してつぶしていきました。歌を歌いながらつぶしたり、保育者と手を繋ぎジャンプしてつぶしたり、手をグーにして両手をドンドンとたたいたり、4 グループそれぞれのつぶし方を楽しんでいました。また、茹でた大豆の温かさを手の平、足の裏、寝転んで感じる姿もありました。

③ 味噌玉を作っていく

つぶした大豆を協力して運び、ボールに移しました。麴・塩、大豆をしっかりと混ぜ合わせ、一つひとつ丁寧に心を込めてお団子のように丸くしました。「この丸はちっちゃいのとかいろいろ作りたいの！」と自分の手の中に収まる玉、収まりきらないくらいの玉と大きさも様々の味噌玉が出来上がりました。

④ 味噌玉を貯蔵樽の中に投げ入れる。

思いきり樽に投げ入れる子、優しく入れる子、勢いあまって樽からはみ出してしまう子と入れ方も様々な姿がありました。最後には塩で蓋をし、「美味しくなあれ」と言葉をかけましたよ！持ち帰りのジップロックに詰める時にも、すぐく気持ちを込めている表情や「パパとママと自分の！」と家族のことを考えて入れ、大切に持ち歩く姿が可愛かったです。

SOYOKAZE

ちょっと、寄り道しています

元気いっぱいフルパワーで登園から降園まで過ごしているそよかぜの子どもたち。

年明け頃から体力がついてきたこともあり、午前中の活動時間を以前よりも30分～45分ほど伸ばすと、戸外での時間をたっぷりと取れるようになり、最近は川沿いをずーっと先の方まで歩いてみたり、帰り道に寄り道をして帰ってきています。その寄り道先のひとつが『中村農園』です。住宅街の一角にあるこの場所には、大きなおたまじゃくし池と烏骨鶏の小屋があります。

最初の頃は「ニワトリさんに会いに行こう!」と向かっていたこの場所でしたが、ある時池の中や置かれているケースの中に大量のカエルの卵を発見しました。

ゼリー状に連なるいくつもの卵の塊。枝で水をかき混ぜてみるとブルブルと動く水面に興味津々の子どもたち。「ぼくもやってみよう!」と次々に枝を片手につつき始めました。次に農園の中を探索してみると桶の中をスイスイと泳ぐ2匹の大きなカエルを発見!大きなカエルを見たのはこの時が初めてだったのかなと思います。手足をビョーンと伸ばし泳ぐ姿に釘付けでした。

この日の出会いをきっかけに大好きになったこの場所。それから何度も訪れる中で、おんぶをしているカエルの親子に出会ったり、卵からかえったばかりの小さなおたまじゃくしを見つけたり、池の中で寒さのあまり死んでしまっているカエルに出会う日もありました。

これから季節が進むにつれて変化していくこの場所を、これからも楽しみながら過ごしていけたらと思っています。

文 あづあづ



KIDS SMILE LABO CLASS NEWS | 2

KOMOREBI

自我が芽生え見えてきた姿

自我が芽生え始めたこもれびの子どもたち。使っていたものをとられてしまったり、逆にとられてしまったり。そういったやりとりが見られるようになってきました。

この「取り合う」という行為は一見すると「かわいそう」「そんなことをしてはダメ」なんて気持ちにもなるかと思いますが、止めたくてしまうもの。しかしながら、大人が率先して玩具の受け渡しをしてしまったら子どもは感じたり知る機会を失ってしまいますし、「おもちゃで遊びたかった」という気持ちも置き去りにされてしまいます。物の取り合いは子どもたちにとっては成長の証の一つです。無理に止めるとすることはせず双方の気持ちの動きややりとりを見守り受け止めるようにしています。

そういった中、物の取り合いの姿以上に友達と関わり同じ遊びを楽しんだり同じ感覚を味わい面白がったりする姿が増えてきています。これまでは個だった子どもたちが共に過ごす仲間として互いを思い名前を呼んでみたり、泣いている子がいればそばに寄って行って頭を撫でてみたり。これもまた一つの成長の証です。そういった姿が見られるのも物の取り合いのような気持ちのやりとりを十分にしているからだろうなと思います。

自我の芽生えはこれからもたくさんの新しい姿を見せてくれることと思います。その一つ一つを面白がったり、時には困ってみたりもしながら日々の育ちを見守っていきましょう。

文 もりもり



KSLJ

節分

鬼がやってきた!



寒くなり始めた頃から「もうすぐ鬼くる?」と気にしていた子どもたち。2月3日ドキドキしながら始まった朝、「鬼くる?」と何度も確認している子どもたちのために『福豆』と『やいかがし』を用意し、もしも鬼が来てもこれでやっつけようね!と1日をスタートしました。

いつも通り朝の集まりをして、保育者が紙芝居を読んでいると『あれ?全然足りない!』『あ〜折角みんなに読みたかったのに!なんでよ!!』と怒りだしました。そんな様子を見てもう1人の保育者は『怖いよ〜怒らないでよ〜』と泣いてしまいました。するとどうでしょう!2人の心の中にいた『怒りんぼ鬼』と『泣き虫鬼』がラボにやってきてしまいました。「嫌だ〜」「え〜ん」と泣き出す子どもたち。勇気を振り絞り三方を手にして鬼めがけ豆を投げます。「鬼は〜外!」「福は〜内!」泣いてしがみついてしまうかな?という予想とは反対に、鬼に立ち向かい、三方に豆がなくなるほど一生懸命豆を撒く姿がありました。最後の一撃、『やいかがし』を鬼に近づけると鬼たちは改心し、にっこりと表情を変えラボから去っていきました。鬼がいなくなった安堵から涙が止まらないラボの子どもたち。「よかった〜」「怖かったよ〜」「もう来ないで欲しい」と思い思いに口に出す姿がありましたよ。

その後は気分を変えるべく散歩へ出かけました。もう鬼が来ないように!と各々ポケットに豆を入れたり、念の為やいかがしをリュックに刺して行こうと提案がありました。実は、鬼が去り際に『みんななかよくあそんでね』と書いてある手紙を投げ捨てて行きました。この手紙をみて子どもたちはどんなことを考えたでしょう。いつまでも仲の良いラボの子どもたちであって欲しいと願っています。

文みーちゃん



小さいおともだちも
節分の行事に触れていきましたよ



1.2歳児は日頃沢山読んでいた絵本『おなかの中におにがいる』の内容から、あづあづのお腹に怒りんぼ鬼と泣き虫鬼がやってきた!ということで、カラーボール当てをしました。ちょっぴりビクビクとしながらも一生懸命ボールを当て、無事に退治成功!!鬼がいなくなるとホッとした表情を見せていました。

KIDS SMILE LABO KITCHEN

Vol. 11

福を呼び込む恵方巻き

KIDS SMILE LABO KITCHEN

保育園KIDS SMILE LABOで毎日子どもたちに提供している給食は厚木で育った旬の野菜、無添加調味料を使用して安心安全に、そして見て美しい食べて美味しい給食を2343FOODLABO監修のもと、調理をしています。



午前中、鬼の登場によって高まった気分や沈んだ気分を少し、落ち着けるためお散歩へ出かけた子どもたち。調理チームはその間に恵方巻き作りの準備をします。1人ずつ海苔や具材を取り分け、席を用意し準備が終わる頃ちょうど子どもたちが帰ってきました。「やっちゃん何してるの〜?」と興味津々。身支度を整えた子どもから着席したのも束の間、「早くやりたい!」「もう巻いていい?」「お腹すいた!」の声が聞こえてきて、恵方巻きの由来の説明が始まりました。

大人の恵方巻きの巻き方をよく見て、上手に巻けた子、「手伝ってほしい」と声をかけてくれた子、巻いた途端、ついパクッと口に運んでしまった子、それぞれの個性が見られて、これもまた実習の面白さを感じました。3〜5歳児クラスの子どもたちは今年の恵方『南南東』を向いて、クスクス笑いながらも黙って1本食べ切ることができた事には大人も驚きました。

今年度は恵方巻きの具材も、昨年度の3種類から7種類へとパワーアップ。キノコやお野菜もたっぷり「みんな食べてくれるかな?」と心配していましたが、自分で巻いた恵方巻きだからなのか、苦手な具をよけたりすることなく食べ切っていました。恵方巻きを食べたみんなに今年も福が舞い込めますように。

文やっちゃん

